

タウンミーティング

河合愛AI構想における協働のまちづくり



令和4年9月23日（祝金）

本日の次第

1. 河合愛AI構想の進捗状況

説明 15分 + 質疑応答 5分

河合町長 清原和人

2. (仮称) 河合町まちづくり基本条例

解説及びワークショップ 1時間程度

NPO政策研究所



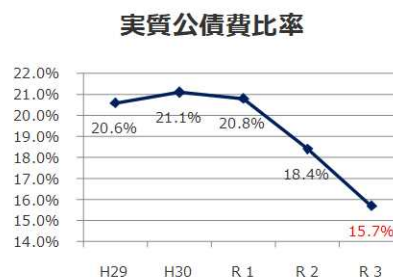
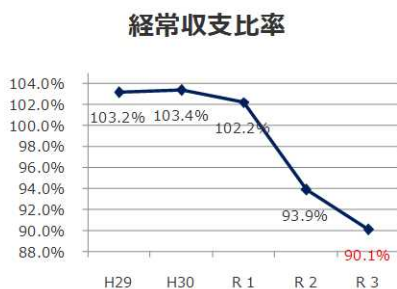
(本日は、お集まりいただきありがとうございます)

私からは、公約に掲げた三つの重点施策や河合愛AI構想に定めた事業の進捗について、お話します。

ご覧のように、河合愛AI構想は、「人に優しい 人情あふれる町 温かい町」を基本理念として、誇れる河合町を未来に繋いでいくための構想です。



この基本理念のもと、暮らし愛、支え愛、学び愛、話し愛、関わり愛の五つの目標にカテゴライズした各種事業、および、横断的な取り組みを進めています。



しかし、就任当初、町の財政状況はご存じの通り、良いとはいええないもので、
第一に着手すべきは、財政面での立て直しでした。

財政の健全化なくしては、町を元気にするサイクルは回りません。

令和2年度には県から重症警報が出されましたが、県との合同勉強会や財政健全化計画の練り直し
など、職員のたゆまぬ努力の結果、

この2年間での奈良県からの支援や地方債の借り換え、償還繰り延べなどの措置により、
命を守るための事業や子どもたちの育成に関連する、大切な事業の財源を確保することができまし
た。

ご覧のように

長い目でみた、全体の財政的な平準化を図ることを優先したためです。

令和2年度からは新型コロナの影響もありましたが、令和3年度の決算に見えるように、我が町の財
政状況はある程度改善できたと感じています。

底をついていた財政調整基金については、令和元年度との比較で、令和3年度にはで約13倍にす
ることができました。

令和元年度

「今あるもの」の活用



- 課題の具体化による各種施策と組織体制の見直し
- 「財政健全化計画」目標達成への具体的手法の指示、徹底へ
- 教育環境の改善（小中学校教室へのエアコン設置など）

5

河合愛AI構想を掲げましたが、
財政の立て直しと並行して、やれることから、改善への事業を進めてまいりました。
令和元年度には、課題の具体化を図り、それを解決するための組織体制を見直しました。
新たに何かを作り出す、建てるのではなく、「今あるものの活用」を考えました。
また、教育関連では全ての教室にエアコンを設置し、学習環境の向上に努めました。

令和 2 年度

実行する体制づくり



- かがやきの森こども園開園、二小・三小統合
- 手話言語条例施行
- 「河合愛AI構想」のとりまとめ
- 組織の強化と若返り、県との連携強化
- 令和 2 年度黒字決算
- 「財政健全化計画」目標100%達成

6

令和2年度、
かがやきの森こども園が開園し、
河合第二小学校と河合第三小学校を統合し、新たな河合第二小学校がスタートした年です。
「人に優しい 人情あふれる町 温かい町」を目指して手話言語条例も施行しました。
河合愛AI構想の取りまとめ、組織の強化に着手し、徹底的に無駄を省いたことで、
決算では、財政調整基金を取り崩すことなく、約2億2千4百万円の黒字となり、
財政健全化計画においては、平成29年度の策定以来、はじめて目標額の100%を超えることができました。

令和 3 年度 町制施行50周年

「河合愛AI構想」スタート



- ・令和 3 年度黒字決算 ・民間との連携
- ・女性や若手職員の登用、県との連携の継続
- ・障がい者福祉と高齢者福祉の連携
- ・ファシリテイマネジメント推進室新設
- ・史跡＆古墳巡り『御墳印帖プロジェクト！』スタート

河合愛AI構想をスタートした令和3年度、

一般会計の決算では、約3億6千4百万円黒字となりました。

さきほどのグラフにありましたように、財政調整基金を取り崩すのではなく、大きく積み上げる結果となりました。

町の大きな区切りである町制50周年を機に、民間との連携を 強力に進めてまいりました。

観光事業として、町のPRを兼ねた御墳印帖プロジェクトは、我が町発信で、

他府県から「このような事業を考えているので、どのようにやってこられたのか参考にしたい」という問い合わせもいただき、

全国に広まりつつある事業に育っています。

令和 4 年度

「河合愛AI構想」推進へ



- 旧河合第三小学校の利活用着手
- 「河合町まちづくり基本条例」答申へ(11月予定)
- 連携協定による官民交流促進や事業展開の推進
- 町社会福祉協議会との連携強化
- 内水対策事業に着手

8

そして、令和4年度。

県との合同勉強会などを経て策定した、新たな財政健全化計画が大幅に進み、財政調整基金への積み立てなどに明るさが見えてきました。

町としての大きなプロジェクトである、旧河合第三小学校の利活用および内水対策を進めるための予算を、やっと、立てることができました。

ここから、3小跡地を、町を活性化させる魅力ある拠点として整備していきます。

旧河合第三小学校

魅力ある複合施設

誰もが集える場所
高機能防災機能
公民館や体育館の転用



その他の施設

施設の無駄をなくす

心の交流センターと児童館を集約し多機能化
※旧児童館建物は耐震性ありの診断結果

北体育館を近隣市町と共同利用できる施設に指定
(令和4年10月から実証実験)



今あるものを有効に活用する。

それこそが、ファシリティマネジメントです。

重点施策の一つ目であるファシリティマネジメントでは、

旧河合第三小学校の体育館に避難所機能を備え、

グラウンドに防災備蓄倉庫を設置するなど、高機能な防災拠点整備として、

令和5年度より工事に着手し、

引き続き、令和6年度には、グラウンドに最も近い校舎棟に避難所機能を有する公民館として改修に着手する予定です。

施設の統廃合では、心の交流センターと児童館の統合を完了しました。

北体育館は近隣の市や町との共同利用施設として、試験利用を開始します。

環境整備

施設や環境

かがやきの森こども園を開園（令和2年4月）、つどいの広場、保健センターの乳幼児健康診断や予防接種、町民大学の親子体験教室や寺子屋教室

かがやきの森こども園を
保育や幼児教育だけではなく
子育ての地域連携事業の拠点に



きめ細やかに

子育て世代包括支援センター（令和2年10月）
子育てサポートパックの配布
相談などのワンストップ
ベビーマッサージ講座
子育て世代への傾聴ボランティア など



重点施策のふたつめ、子育て支援では、
令和2年4月に、幼保一体のかがやきの森こども園が開園しました。
その機能を十分に活かすため、同年、子育て世代包括支援センターを設置し、きめ細やかな対応に務めています。
今年度も、新たにベビーマッサージ講座の開設や、子育て傾聴ボランティア活動など、
新しいアイデアを取り入れながらどんどん進化しています。

学校教育

第二第三小学校の統合

河合第二小学校の校舎の長寿命化の際、校舎の色やトイレのドアの色など、子どもたちの意見を取り入れて改修



ICT教育

1人1台タブレット

国の構想に先駆けて！

35人学級

プログラミング教室



英語力強化

イングリッシュエデュケーションプログラム

ALTを増員し、2人体制に



学習支援

学校授業における学習支援員の配置

すな丸未来塾（学習支援フェローによる放課後支援）
→中学生にも広げていく

重点施策の3つめは、教育のまちです。

令和2年4月に河合第二小学校と河合第三小学校の統合が完了しました。

この校舎は、改修の際、子どもたちがより楽しく学校生活を送れるよう、校舎の色やトイレのドアの色などを、子どもたちの希望を取り入れてデザインしています。

一人一台のタブレットを導入したICT教育はもちろん、

令和3年度からは、国の構想に先駆けて、35人学級を実施しています。

また、ICT教育についてもコンピューターのプログラミングを取り入れるなど、常に先行した取り組みを進めています。

英語教育においても、

英語に楽しく親しむイングリッシュエデュケーションプログラムのほかに、

今年度で英語の外国人補助、いわゆるALTを二人体制にすることで、外国語教育のさらなる充実に向けた環境整備を進めました。

義務教育以外の学習支援についても、すな丸未来塾などをはじめており、今後、中学生にも対象を広げていく予定です。

福祉の充実

手話言語条例



魅力発信

サイクルトレイン

サイクルトレイン 運行!



たんぼの楽耕



大和の黒豆 KAWI BLACK



史跡&古墳
巡り
『御墳印帖』
プロジェクト



まちづくりは多岐にわたります。

この構想の理念である「人に優しい 人情あふれる町 温かい町」は、すべての町民が住みやすい町でなければ実現しません。

令和2年度に施行した手話言語条例もその1つです。

親しみやすさから覚えていってほしいと、学校の掲示板や毎月の広報紙でわかりやすい言葉を紹介しています。

また、この町に住む人が誇れるまちであるには、まちのことを知ってもらわねばなりません。

いろんな角度から、町内・町外へと魅力を発信することに力をいれています。

企業との連携等

連携協定や災害支援協定等



(株)南都銀行
連携協定



奈良ニッセイエデンの園
連携協定



日本郵便(株)連携協定



(株)社川由と連携協定



(株)ヒラノテクシード
バスラッピング寄贈

パートナーフェロー

まちの仲間（フェロー）の「やりたい！」を支援



当然のことながら、まちをつくっていくのは、行政の力だけではありません。
町に住んでいる人、営業しているお店、町内や近くにある会社で働く人々。
それぞれに役割や思いがあって、まちは成り立っています。
昨年の町制50周年の事業でぐっと進めた官民連携。

この3年間で、

株式会社南都銀行、日本郵便株式会社、奈良ニッセイエデンの園、

災害時の段ボール仕切りなどを製造されている株式会社川由と連携協定を締結し、可能な限り協力しあって事業を展開しています。

来週、9月28日には畿央大学とも連携協定を締結します。まちづくりや都市デザインを志す大学生の若いアイデアに、期待しています。

また、町内企業のご協力もあり、ふるさと納税も順調にご寄付をいただいています。

町内唯一の上場企業である株式会社ヒラノテクシードからは、こども園の通園バスのラッピングのご寄付を皮切りに、福祉、子育て等の面でご支援をいただいています。

パートナーフェローでは、200名近くが参加してくださっている登下校の見守りをはじめ、学校支援ボランティア。

こども園の森森ファームや豆山の郷のカフェ豆山、御墳印帖プロジェクトなど、本当に温かいまちを体現してくださる皆さまに、感謝しています。

もっともっとこの輪をひろげていきたいと思っています。

「人に優しい 人情あふれる町 温かい町」をめざして

河合愛AI構想における協働のまちづくり



(仮称) 河合町まちづくり基本条例

昨年、町として50年を超えた河合町、こうしてたくさんの関わりが積み重なって、今があるのだと思います。

この町を、「人に優しい 人情あふれる町 温かい町」として、

百年も二百年も未来へ繋いでいけるよう、

持続可能なまちづくりについて、

第二部ではポジティブなご意見を沢山いただけることを楽しみにしています。

それでは、このような温かいまちづくりの基盤となる条例の概要や解説などについて、

第二部をNPO法人政策研究所のみなさんにお任せすることにして、

私からの河合愛AI構想、進捗の報告は、ここまでとします。

ご清聴、ありがとうございました。